

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月14日

【四半期会計期間】 第36期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第35期 第2四半期 連結累計期間		第36期 第2四半期 連結累計期間		第35期	
		自 至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自 至	平成25年4月1日 平成25年9月30日	自 至	平成24年4月1日 平成25年3月31日
売上高	(千円)		8,089,676		8,786,404		16,183,883
経常利益	(千円)		11,191		256,874		235,604
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失()	(千円)		72,783		146,010		306,562
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		82,104		143,225		324,816
純資産額	(千円)		4,644,009		5,192,688		5,049,979
総資産額	(千円)		13,553,402		13,669,251		13,927,931
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)		3.40		6.83		14.33
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)				6.71		14.07
自己資本比率	(%)		34.2		37.9		36.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		120,726		299,777		978,063
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		193,752		30,048		146,382
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		469,094		298,477		774,925
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		842,231		1,317,630		1,346,376

回次		第35期 第2四半期 連結会計期間		第36期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成24年7月1日 平成24年9月30日	自 至	平成25年7月1日 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		0.32		1.73

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第35期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府・日銀一体となった財政・金融政策等により円安・株高が進行した結果、輸出の伸びと個人消費の改善等の後押しを受けながら緩やかな回復がみられました。一方、円安に伴う原材料・エネルギー価格の上昇や消費税増税、海外の景気減速懸念等もあり、先行きは引き続き不透明感が残る状況であります。

外食業界におきましても、個人消費が改善の兆しを見せておりますが、一方で、原材料・エネルギー価格が上昇する等、経営環境は依然として厳しい状況が続きました。

このような状況の下、当社グループの主力である焼き肉業界は、夏場の天気にも恵まれ、また、「ハレの日」需要が上向き、比較的順調に回復しております。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高87億86百万円（対前年同期比8.6%増）、営業利益2億90百万円（対前年同期比531.1%増）、経常利益2億56百万円（前年同期は11百万円の利益）、四半期純利益1億46百万円（前年同期は72百万円の損失）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は199店舗であります。内訳は直営160店舗、暖簾5店舗、FC34店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「スポーツ家族応援フェア」、「生ビール&焼肉スクラッチフェア」、「元気いっぱい“ごちそうさま！”フェア」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアや夏季限定「涼やか冷麺」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は74億81百万円（対前年同期比8.9%増）となり、セグメント利益（営業利益）は4億81百万円（対前年同期比85.8%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、FC2店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「春のお祝い祭り」、「初夏の行楽焼肉フェア」、「生ビールチャレンジ祭」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアや韓国氷菓パッピンス等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は9億88百万円（対前年同期比

7.2%増)となり、セグメント利益(営業利益)は81百万円(対前年同期比32.8%増)となりました。

その他業態

当第2四半期連結累計期間に暖簾1店舗を直営化し、直営1店舗を閉鎖した結果、その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は15店舗であります。内訳は直営8店舗、暖簾1店舗、FC6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「楽コンセプト(焼肉)」、「まんぼく(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「和牛カルビ屋(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「龍饗(中華)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「AGRICO(イタリアンカフェ)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は3億15百万円(対前年同期比5.6%増)となり、セグメント損失(営業損失)は11百万円(前年同期はセグメント損失27百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ2億58百万円減少し、136億69百万円となりました。これは主に、売掛金が減少したこと、有形固定資産の減価償却等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ4億1百万円減少し、84億76百万円となりました。これは主に、買掛金、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ1億42百万円増加し、51億92百万円となりました。これは主に、四半期純利益の計上によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、28百万円減少し、13億17百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額92百万円がありましたが、税金等調整前四半期純利益の計上2億29百万円、補助金の受取額93百万円等により2億99百万円の収入となり、前年同期と比べ1億79百万円の収入の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、敷金及び保証金の回収による収入56百万円がありましたが、有形固定資産の取得による支出54百万円、無形固定資産取得による支出15百万円等により30百万円の支出となりました。前年同期は1億93百万円の収入でありました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純減少額1億14百万円、長期借入金の返済による支出2億5百万円等により2億98百万円の支出となり、前年同期と比べ1億70百万円の支出の減少となりました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株であります。
計	21,504,347	21,504,347		

(注) 提出日現在発行数には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
豊山開発株式会社	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	2,400	11.16
柳 時 機	さいたま市浦和区	1,710	7.95
アサヒビール株式会社	墨田区吾妻橋一丁目23 - 1	1,001	4.65
柳 允	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 詠 守	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 京	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 先	文京区小日向	559	2.60
柳 朱 理	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 允 寿	さいたま市浦和区	459	2.13
柳 俊 勲	さいたま市浦和区	459	2.13
計		8,831	41.07

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 111,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,212,000	21,212	
単元未満株式	普通株式 181,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,212	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式937株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	111,000		111,000	0.52
計		111,000		111,000	0.52

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,349,391	1,319,645
受取手形及び売掛金	349,778	274,378
商品及び製品	99,118	117,807
仕掛品	877	1,325
原材料及び貯蔵品	230,831	282,210
前払費用	202,822	200,619
繰延税金資産	78,741	47,823
その他	175,260	145,711
流動資産合計	2,486,822	2,389,521
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,399,785	2,291,929
機械装置及び運搬具(純額)	17,193	22,255
工具、器具及び備品(純額)	180,193	175,822
土地	5,627,685	5,627,685
リース資産(純額)	20,393	17,204
有形固定資産合計	8,245,251	8,134,897
無形固定資産	103,027	105,566
投資その他の資産		
投資有価証券	82,914	80,762
長期貸付金	883,532	859,043
長期前払費用	23,188	24,367
繰延税金資産	10,065	35,424
敷金及び保証金	2,765,966	2,713,523
その他	63,935	62,513
貸倒引当金	736,772	736,369
投資その他の資産合計	3,092,830	3,039,266
固定資産合計	11,441,109	11,279,729
資産合計	13,927,931	13,669,251

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	526,125	426,903
短期借入金	6,145,601	5,838,140
リース債務	8,875	8,875
割賦未払金	6,961	3,126
未払金	249,297	321,680
設備関係未払金	19,092	26,452
未払費用	495,523	467,481
未払法人税等	123,561	101,348
未払消費税等	94,716	67,938
賞与引当金	64,124	64,480
転貸損失引当金	3,217	3,217
その他	497,673	476,669
流動負債合計	8,234,770	7,806,314
固定負債		
長期借入金	-	20,724
リース債務	21,901	17,463
長期割賦未払金	389	4,331
繰延税金負債	116,278	116,851
退職給付引当金	133,637	134,772
役員退職慰労引当金	270,791	277,530
転貸損失引当金	28,149	26,541
その他	72,034	72,034
固定負債合計	643,180	670,248
負債合計	8,877,951	8,476,563
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	602,977	456,967
自己株式	67,273	67,469
株主資本合計	5,049,395	5,195,209
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,116	8,901
その他の包括利益累計額合計	6,116	8,901
新株予約権	6,700	6,380
純資産合計	5,049,979	5,192,688
負債純資産合計	13,927,931	13,669,251

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	8,089,676	8,786,404
売上原価	2,983,153	3,177,338
売上総利益	5,106,522	5,609,065
販売費及び一般管理費	¹ 5,060,410	¹ 5,318,069
営業利益	46,112	290,995
営業外収益		
受取利息	16,990	16,430
受取配当金	1,027	1,033
受取地代家賃	5,536	5,511
貸倒引当金戻入額	323	343
その他	27,574	22,461
営業外収益合計	51,451	45,781
営業外費用		
支払利息	80,451	73,829
その他	5,921	6,073
営業外費用合計	86,373	79,903
経常利益	11,191	256,874
特別利益		
固定資産売却益	1,079	-
投資有価証券売却益	-	0
特別利益合計	1,079	0
特別損失		
固定資産除却損	7	1,756
減損損失	42,841	10,264
賃貸借契約解約損	5,628	15,434
特別損失合計	48,476	27,455
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	36,206	229,418
法人税、住民税及び事業税	34,480	77,849
法人税等調整額	2,096	5,558
法人税等合計	36,577	83,408
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	72,783	146,010
四半期純利益又は四半期純損失()	72,783	146,010

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	72,783	146,010
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,320	2,785
その他の包括利益合計	9,320	2,785
四半期包括利益	82,104	143,225
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	82,104	143,225

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	36,206	229,418
減価償却費	176,385	179,947
減損損失	42,841	10,264
貸倒引当金の増減額(は減少)	373	403
賞与引当金の増減額(は減少)	5,510	355
退職給付引当金の増減額(は減少)	2,918	1,135
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	14,591	6,739
転貸損失引当金の増減額(は減少)	1,072	1,608
受取利息及び受取配当金	18,018	17,464
支払利息	80,451	73,829
為替差損益(は益)	2	2
固定資産売却損益(は益)	1,079	-
投資有価証券売却損益(は益)	-	0
固定資産除却損	7	1,756
賃貸借契約解約損	5,628	15,434
売上債権の増減額(は増加)	28,235	75,400
たな卸資産の増減額(は増加)	62,627	70,517
前渡金の増減額(は増加)	4,217	44,329
仕入債務の増減額(は減少)	11,489	99,221
未払金の増減額(は減少)	39,739	67,939
未払消費税等の増減額(は減少)	35,700	19,194
未払費用の増減額(は減少)	5,609	23,185
預り金の増減額(は減少)	19,446	18,731
前受収益の増減額(は減少)	25,497	30,444
その他	4,737	19,202
小計	259,547	355,376
利息及び配当金の受取額	16,670	16,231
利息の支払額	80,108	73,455
補償金の受取額	-	6,500
補助金の受取額	-	93,208
店舗閉鎖に伴う支払額	3,428	5,943
法人税等の支払額	71,953	92,140
営業活動によるキャッシュ・フロー	120,726	299,777

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	0	0
定期預金の払戻による収入	-	1,000
有形固定資産の取得による支出	80,691	54,364
有形固定資産の売却による収入	154,079	-
無形固定資産の取得による支出	14,194	15,678
投資有価証券の取得による支出	59	60
敷金及び保証金の差入による支出	10	-
敷金及び保証金の回収による収入	130,291	56,948
貸付金の回収による収入	646	2,486
預り保証金の受入による収入	3,049	-
投資その他の資産の増減額（は増加）	641	20,380
投資活動によるキャッシュ・フロー	193,752	30,048
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	21,201	114,208
長期借入れによる収入	-	33,000
長期借入金の返済による支出	402,412	205,529
割賦債務の返済による支出	41,376	6,997
リース債務の返済による支出	3,266	4,226
自己株式の取得による支出	537	196
その他	300	320
財務活動によるキャッシュ・フロー	469,094	298,477
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	2
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	154,618	28,746
現金及び現金同等物の期首残高	996,849	1,346,376
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 842,231	¹ 1,317,630

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
(株)書楽	200,777千円	(株)書楽	189,161千円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
減価償却費	157,494千円	162,485千円
賞与引当金繰入額	52,690 "	51,251 "
退職給付費用	7,483 "	8,274 "
役員退職慰労引当金繰入額	14,591 "	6,739 "
給料手当	2,373,949 "	2,517,081 "
地代家賃	1,065,850 "	1,016,495 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金	845,246千円	1,319,645千円
預入期間が3か月を超える定期預金	3,014 "	2,015 "
現金及び現金同等物	842,231千円	1,317,630千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,867,606	922,778	299,291	8,089,676	8,089,676		8,089,676
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	6,867,606	922,778	299,291	8,089,676	8,089,676		8,089,676
セグメント利益又は 損失()	259,274	61,146	27,026	293,394	293,394	247,281	46,112

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては19,325千円であります。

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては23,516千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	7,481,661	988,769	315,974	8,786,404	8,786,404		8,786,404
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	7,481,661	988,769	315,974	8,786,404	8,786,404		8,786,404
セグメント利益又は 損失()	481,670	81,230	11,951	550,950	550,950	259,954	290,995

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては10,264千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額()	3円40銭	6円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	72,783	146,010
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	72,783	146,010
普通株式の期中平均株式数(株)	21,395,078	21,392,708
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		6円71銭
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)		372,938
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第2四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月13日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 木村 直人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。